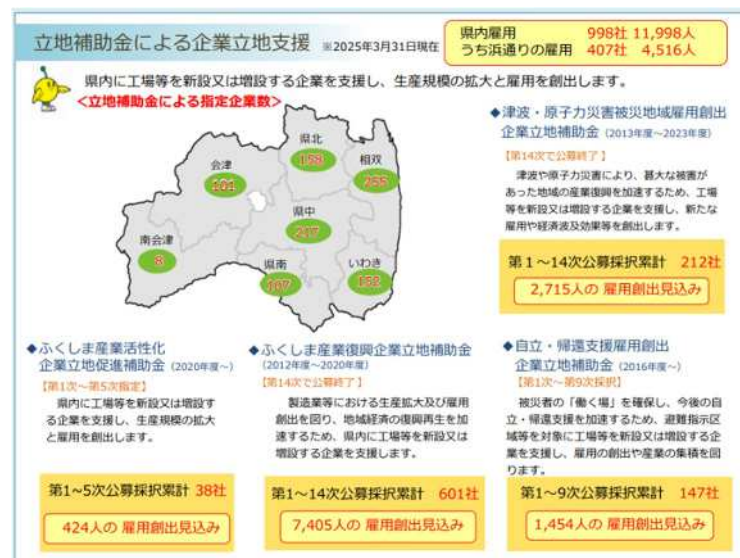


派遣先所属 福島県企業立地課  
氏 名 本郷 明日香（ほんごう あすか）  
派遣期間 令和6年4月1日～令和8年3月31日（昨年度から継続派遣）

## 1 派遣業務の内容、現況

企業立地課では、主に企業誘致及び補助金等の企業立地支援に係る業務を行っており、私は主に企業立地補助金である、「ふくしま産業復興企業立地補助金」「ふくしま産業活性化企業立地促進補助金」及び国が所管する「自立・帰還支援雇用創出支援企業立地補助金」に係る業務を担当しています。いずれも東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所の事故により大きな打撃を受けた福島県の製造業等の生産拡大及び雇用創出を図ることで、地域経済の復興及び活性化に貢献することを目的としています。なお、私の所属する担当は主幹以下5名体制で、自治法派遣職員は私1人となっています。



### 〈企業立地補助金の概要〉

（ふくしま復興のあゆみ（第43号）/令和7年8月26日発行 より引用）

私の業務内容ですが、年度当初は、自立・帰還支援雇用創出支援企業立地補助金の相談対応及び意見書の作成業務を行いました。国の補助金ではありますが採択にあたり県にも意見が求められるため、被災地への貢献度等の観点からヒアリングを行い、県として意見書を作成しました。

7月以降は、ふくしま産業活性化企業立地促進補助金の申請受付・審査等の一連の業務を担当し、12月前半に無事、採択企業を公表しました。事業完了企業に対する補助金交付事務においては、支払証拠書類を確認し補助対象として適正かどうか等を細かく審査する事務を行っています。なお、2年目ということもあり、昨年度の反省を生かし、審査方法の見直しや企業の現状を踏まえ交付要件の見直しを行ったり、交付事務を円滑に行うため年度当初から企業と綿密にやり取りするなど、業務改善に努めました。

このほか、「ふくしま産業復興企業立地補助金」については、既に新規募集も補助金交付も完

していますが、補助金で取得した財産の処分に関する事務を行っています。受給から10年以上経過する企業も増えていく中で財産の処分等を行う企業が増えているため、企業が適切に財産の管理をできるよう、業務委託先の団体と連携しながら事務を進めています。

## 2 被災地の復旧・復興の状況

産業振興の観点からみれば、企業立地補助金等の効果もあり、被災企業の事業再開や県外からの企業進出が進んでおり、特に浜通り地域では、ロボット、航空宇宙、再生可能エネルギー、水素関連などの新産業の育成・集積にも取り組んでおり、着実に被災地の復旧・復興は進んでいると思います。

しかし、実際に県内に進出した後に、社会情勢の変化、資金繰りの悪化や人材確保の厳しさ等により破産・撤退する企業も増えており、立地企業を県内に「定着」させることが大きな課題となっています。定着のためには、人材確保や販路拡大等の伴走的な支援が不可欠であり、実際、私の担当する「ふくしま産業復興企業立地補助金」でも、補助金交付企業に対する財務や雇用等の面からの経営支援を実施しています。産業復興に向けた歩みを止めないためにも、持続的に企業に沿った支援を行っていく必要があると感じます。

## 3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県に派遣されて1年半が経ちましたが、東日本大震災と原発事故の発生から14年以上が経過し、風化が進んでいると感じています。私が普段生活する福島市では震災の影響を感じることはほとんどなく、福島県職員も震災後に入庁する職員が増えており、復興施策推進への熱量の低下も懸念されています。もちろん、復興は着実に進んでいますが、まだまだ道半ばです。浜通りの帰還困難区域が含まれる市町村は、まだまだ住民の帰還が進んでいなかったり、実際に訪問すると、人の手入れが入っていない生い茂った草木や老朽化した建物等を目にする機会が多いです。今一度、福島の今をたくさんの人に知ってもらい、震災を風化させないことが大切であると思いました。

福島県は、中通り、浜通り、会津のそれぞれの地域で異なった気候風土を持っており、季節ごとに様々な風景を楽しむことができるので、とても見所の多い県だと思います。今年も様々なところに訪問することができ、充実した日々を過ごすことができました。

あと数ヶ月で埼玉に戻る予定ですが、自分の目で見て、耳で聞いて、足を運んで、感じた福島の魅力や福島の現状を様々な人に伝えることで、微力ではありますが、福島県に貢献できればと思います。



夜ノ森桜並木（春）



伊佐須美神社（夏）



中津川溪谷の紅葉（秋）



雪の大内宿（冬）